

ウインターカップ2020

令和2年度 第73回全国高等学校バスケットボール選手権大会 岡山県予選会

日時	2020年11月8日	12:30	男子	決勝
会場名	笠岡総合体育館			Mコート 第②試合

○ 商大附属 101	<table border="1"> <tr><td>31</td><td>-</td><td>18</td></tr> <tr><td>20</td><td>-</td><td>16</td></tr> <tr><td>22</td><td>-</td><td>13</td></tr> <tr><td>28</td><td>-</td><td>37</td></tr> </table>	31	-	18	20	-	16	22	-	13	28	-	37	84 岡山工業 ●
31	-	18												
20	-	16												
22	-	13												
28	-	37												

審判名	クルーチーフ		前花直哉				1stアンパイア	中村達哉	2ndアンパイア		石川貴基		
選手名	背番号	得点	3Pポイント	2Pポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3Pポイント	2Pポイント	フリースロー	ファウル
崎濱 秀平	4	3		1	1	4	難波 遥希 (C) *	4	19		8	3	3
崎濱 秀太	5	2			2		小椋 大雅 *	5	40	7	6	7	3
深津 章太 (C) *	6	25	2	8	3	2	大高 透也 *	6	4		2		4
森山ハート隼太 *	7	33	2	12	3	3	近藤 直希 *	7	15		6	3	3
三上光クリスティア	8	0					奥山 樹一 *	8	6		2	2	5
佐古 壮汰	9	2		1			東 龍一	9	-				
田中 太陽 *	10	8	1	2	1	4	塚本 航	10	-				
佐々木 白斗	11	10		5		2	中矢 匠紀	11	0				1
中村 晴 *	12	7		3	1	5	高田 遥平	12	-				
長谷川 竜玖	13	-					定家 凜太郎	13	-				
十念 璃久 *	14	11		3	5	2	小原 拓人	14	-				
大内 海渡	15	-					矢吹 龍聖	15	-				
石川 翔	16	0				1	池野 恵太郎	16	-				
石井 琉之宥	17	0					山端 唯斗	17	-				
三原 孔也	18	0					鈴木 陽飛	18	-				
合計		101	5	35	16	23	合計		84	7	24	15	19

戦評

ここまで全て100点ゲームで勝ち上がった岡山商大附属と堅実な攻守で決勝まで駒を進めた岡山工業の決勝戦となった。

1Q 立ち上がりは両校ともマンツーマンでスタートし、速い展開の中から岡工⑥、商大⑦などそれぞれ得点を重ねる。岡工のターンオーバーから商大⑦⑭が速攻に持ち込み、開始5分商大11-6岡工となったところで、岡工が1回目のタイムアウト。その後、岡工は⑤の連続得点などで反撃に出るが、商大も岡工の激しいローテーションディフェンスをかいぐり、商大⑥がジャンプシュートを沈める。商大は果敢にインサイドに攻め込み、オフェンスリバウンドを制し、商大⑦が得点を重ね商大31-18岡工で1Qを終える。

2Q 流れを変えたい岡工だが、商大⑥がオフェンスリバウンドから得点し主導権を譲らない。岡工も⑤のドライブで反撃するが、直後に商大⑦が3Pで応戦。商大⑭が速攻から得たフリースローを2本とも決めると一気に商大のペースとなり、点差が開いていく。残り5分、商大のミスから岡工④が得点し、商大42-24岡工とするが、すかさず商大はタイムアウトで一息入れる。落ち着きを取り戻した商大は⑥が3Pでさらに突き放す。商大はゾーンディフェンスに変え、岡工のオフェンスのリズムを崩す。残り3分、岡工④が苦しいシュートを決め勢いに乗ろうとするが、得点は続かない。終盤には岡工⑦の連続得点で食らいつくものの、流れを変えるまでには至らず、商大51-34岡工で前半を終えた。

3Q 後半が始まり両校とも激しいディフェンスで簡単に得点を許さない。商大⑦、岡工⑤がそれぞれ得点するが、どちらも主導権を渡さず、残り6分で商大55-38岡工。その後、商大が力強いリバウンドから速攻に持ち込み、⑦⑩の得点などで徐々にペースを掴んでいく。岡工も⑤のドライブインや、リバウンド争いからファウルをもぎ取り岡工⑦が得点するなど粘りを見せる。しかし終盤、商大⑦の3Pが決まり、商大73-46岡工と点差はさらに広がって3Qを終える。

4Q 開始早々に④の鋭いドライブで得点した岡工はオールコートでのディフェンスでゲームのテンポを上げる。商大は⑩の連続得点で引き離すが、岡工⑤が3連続3Pを沈めると一気に追い上げムードとなり、商大に焦りが見え始める。ボール運びに苦しむ商大のターンオーバーから岡工がオフェンスの機会を増やし、形勢は逆転。商大はタイムアウトを立て続けに取り修正を図るが、得点のない時間帯が続く。残り2分半、勢いに乗った岡工⑤が4Qだけで6本目の3Pを決めると、商大87-76岡工と11点差まで詰め寄る。しかし商大⑩が合わせから得点をあげると、商大⑭も連続得点し、商大は息を吹き返す。岡工は最後まで激しいディフェンスを繰り広げるがファウルもかさみ、ボーナススローを確実に決めた商大が最終的には商大101-84岡工と逃げ切り、3年連続3回目のウインターカップ出場を決めた。

